

萬鉄五郎記念美術館

東和エリア
美術ニュース

no.29

2017.

4月号

KONOMA

木の問通信

没後90年 萬鉄五郎 展

YOROZU Tetsugoro 1885-1927



よろずてつごろう

萬鉄五郎 (1885-1927) の没後90年を記念し、20年ぶりの大回顧展を開催します。油彩画の代表作の展示に加え、近年の様々な研究成果を併せて紹介し、萬鉄五郎が目指した表現の本質に改めて迫ります。特に、萬鉄五郎記念美術館では、南画(水墨画)制作に焦点を当て、その造形や表現の変遷、同時代の油彩画との関連性などについて展覧します。



※南画(なんが)は、中国の南宋画に由来する水墨表現の一分野で、日本では江戸中期以降に発達。萬鉄五郎は、南画に洋画の表現主義との一致点を見だし、南画のエッセンスを取り入れた独自の絵画表現を追い求めた。

1. 萬鉄五郎《掃り道》1923 (大正12) 年頃
2. 萬鉄五郎《砂丘》1925 (大正14) 年頃
3. 萬鉄五郎《材木を流す図》1914-16 (大正3-5) 年

●会期 2017年4月15日(土)～6月18日(日) 月曜休館(5月1日は開館)

●会場 萬鉄五郎記念美術館・岩手県立美術館 [2館同時開催]

●入館料 萬鉄五郎記念美術館 一般700(650)円、高校・学生400(350)円、小・中学生300(250)円()20名以上団体
岩手県立美術館 一般1,000(800)円、高校・学生600(500)円、小・中学生400(300)円()団体、前売料金

●開館時間 萬鉄五郎記念美術館 8:30～17:00(入館は16:30まで) 岩手県立美術館 9:30～18:00(入館は17:30まで)

第37回 萬鉄五郎祭

●会場：萬鉄五郎記念美術館前

《式典》 2017年 5月3日(祝) 14:00～14:30 献花、「鉄人独語」朗読など

画家・萬鉄五郎の命日にあたる5月1日にあわせ、ご遺族や全国の萬ファンを交え、その画業を偲びます。

《写生会》 2017年 4月23日(日) 9:00～12:00 会場／萬鉄五郎記念美術館周辺
参加費／500円 持ち物／鉛筆・絵の具・画板・敷き物(画用紙は配布します)

《写生会展示会》 2017年 4月25日(火)～5月13日(日) 10:00～18:00(* 4/29、5/1-5は図書館休館日)
会場／花巻市立東和図書館(花巻市東和町安俵6-90)

《茶会》 2017年 4月16日(日) 10:00～15:00 会場／東和温泉(第一席、第二席)
実施団体／東和町茶道研究会

●申込・問合せ先 萬鉄五郎祭実行委員会
花巻市東和町土沢5-135 萬鉄五郎記念美術館内 電話0198-42-4402

土澤アートクラフトフェア

アート作品・クラフト作品などクリエイターのお店300組が出店します。

●開催日時 2017年 5月3日(水・祝)・4日(木・祝) 10:00～16:00

●会場 土澤商店街&萬鉄五郎記念美術館前庭(花巻市東和町土沢)

●問合せ先 土澤アートクラフトフェア事務局 ※日曜・祝日休み
岩手県花巻市東和町土沢5-405「キクヤ」内 ☎ 0198-42-2632 <http://arttsuchizawa.com/>



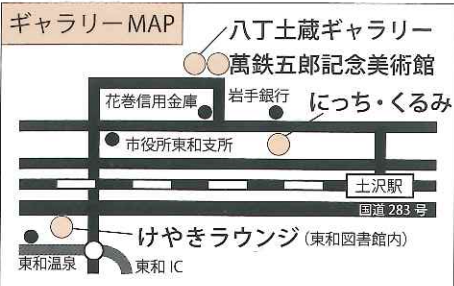
喫茶「八丁土蔵」

萬鉄五郎の老家「八丁」にあった土蔵を移築復元し、ギャラリーと喫茶スペースとして活用しています。自慢のオリジナルコーヒー「蔵」「八丁」を、ぜひ一度ご賞味ください。 営業時間：10:00～16:00 (lo.15:30)



美術の街「土沢」 ギャラリー情報

萬鉄五郎記念美術館とあわせて、「美術の街」土沢めぐりをしてみてはいかがでしょうか。



萬鉄五郎記念美術館

八丁土蔵 ギャラリー

花巻市東和町土沢5-135
萬鉄五郎記念美術館内
9:00-16:00 入場無料
月曜休(祝日の場合翌日)

iwate コンテンポラリーアート vol.6

村上 誠 展

—折々の風—

4/15(土)～6/18(日)

盛岡在住。版画家としても活躍する村上の「風」をテーマにした絵画作品。



Gallery Space けやきラウンジ

花巻市東和町安俵6-90 東和図書館内 tel.0198-42-3205
10:30～18:00(最終日は16:00まで) 入場無料

今野あつ子 展

4/1(土)～4/30(日)

身近な風景や花々の数々。



澤田忠一 展

5/1(月)～5/31(水)

《ファミリー》
アクリル、27x22cm



土沢カフェ **くるみ** tel.080-3334-3003

雑貨とギャラリー **につち** tel.080-4516-4643

花巻市東和町土沢8-115こっぼら土澤 10:00～17:00 火曜定休

写真展「地元を旅する」

4/5(水)～6/5(月)

写真家、関戸勇が歩いて見つけた、東和町の美しい風景。見慣れた地域が、思いがけない顔を見せてくれます。



下坂久美子作品展

5/24(水)～6/5(月)

着物をほどこことから始まる和の布との交感。大胆な直線断ちと独自のデザインで、洋の服に生まれ変わります。



支えた人

第一回ヒュウザン会展(1912年)

に出品された萬鉄五郎の《女の顔》(ボアの女)は、当時流行のボアという細かい毛皮の襟巻をした夫人がモデルになり、イスに座って正面を見据えている図。目の赤い縁どりなどはマチス、筆のタッチはゴッホからの影響である。明らかに通常の美人画を意図したのではなく造形的な探求を試みたもので、画中画に自作の静物画(噴霧器)を配している。棟方志功が萬の一番好きな作品と記し、『萬鐵の絵心』、たまたまなく欲しかったが金がなく断念したものだという。

この作品の構図は、ゴッホの《タンギー爺さん》がヒントになっている。背景の画中画は浮世絵の英泉、広重、国貞の模写で埋めつくされ、ゴッホとタンギー爺さんの日本に対する憧れが満ちている。モデルのペール・タンギーは、モ

ンマルトル近くに画材店を出していて、当時無名の若い印象派の画家たちのよき理解者であった。絵の売れない彼らは貧しかったので絵具を買う金がなく、代金として作品を交換していた。そのモネ、ルノワール、ピサロ、セザンヌらの作品が店内に掛けられて、さながらギャラリーのようであったという。パリに出て来たばかりのゴッホは全く新しい最先端をゆく色彩の明るさと技法を、彼らと浮世絵から影響を受けた。オランダ時代の黒を主体とした画風から、いつきに色彩が明るくなり、華やかなゴッホタッチの点描で描かれたこの作品を、後にロダンがタンギーの娘から買い求め、現在ロダン美術館のコレクションになっている。

ヒュウザン(フランス語で画材の木炭)会展は、萬鉄五郎、高村光太郎、岸田劉生、斎藤与里ら若い画家たちの新しいグループ展で、翌年の2回展から「フェウザン」と改めた。その運営を実質的に支えたのが和歌山出身の北山清太郎で、目錄などの作成も手掛けた。彼は雑誌『みづゑ』の編集に関わり、自らも新しい美術を紹介する美術専門誌『現代洋画』を1912年4月から刊行した。若い画家たちが憧れた西洋の新しい美術の図版が、当時としては珍しいカラーで8枚も挿入されていた。

その会の解散後、彼は岸田、高村、木村莊八らと「生活社展」、続いて「草土社展」を立ち上げ9回まで開催するなど、若い洋画家たちを支援した。北山は、パリでゴッホらを援助した画材商ペール・タンギーになぞらえ「ペール・北山」と呼ばれた。

萬鉄五郎記念美術館長 中村光紀



フィンセント・ファン・ゴッホ
《タンギー爺さんの肖像》
1887年 ロダン美術館



萬鉄五郎
《女の顔(ボアの女)》
1912年 岩手県立美術館

萬鉄五郎記念美術館 岩手県花巻市東和町土沢5-135 Tel.0198-42-4402 8:30am. ~ 5:00pm.

yorozu00@cocoa.ocn.ne.jp <http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/yorozutetsugoro/p004177.html> 月曜休館(祝日の場合その翌日)

発行人/東和町土沢商店街商店会連絡会会長小原茂明